

## 文 献 抄 録

### ベノミルによるイネ線虫心枯病の防除

TEMPLETON, G. E., T. H. JOHNSTON & T. DANIEL (1971) : Benomyl controls rice white tip disease. *Phytopathology*, 61 : 1522~1523.

現在米国では、イネ線虫心枯病は種籾の検定制度の実施によって、ほとんど被害のないまでに防除されているが、品種の育成事業関係では処理の煩雑さ、種籾の発芽阻害、人間への危害などの理由から種籾消毒は全く実施されておらず、病原線虫が根強く残っている。

ベンレイトがタバコシスト線虫(*Heterodera tabacum*)の幼虫の寄主侵入を抑え(MILLER, 1969), また、タバコ・リングスポット・ウイルスの媒介線虫(*Xiphinema americanum*)に対し致死作用がある(MCGUIRE & GOODE, 1970)事実から、著者らは本剤のイネ線虫心枯病防除効果について検討した。

乾燥籾1ポンドあたり3あるいは6mlの水を加えて表面を湿潤にしたのち、ベンレイトの50%水和剤を籾1ブッシェル当たり2および4オンスをスラリー状に塗布した。室温で乾燥したのち、一部は直ちに播種し、残りは紙袋に保存し24日後に播種した。収穫1か月前に発病調査、籾中の線虫数を調査した結果、ベンレイト処理区では発病が低下するとともに線虫数も減少し、収量は著しく増加した。とくに濃度の高い40z/bu区で効果は顕著であった。

一方、培養線虫をベンレイトの0.01~1000ppm溶液中に浮遊させたところ、調査した12時間以内では線虫の活力に対してなんら影響がみられなかった。このことから著者らはベンレイトの線虫心枯病防除機作は従来の化学物質に比べて複雑なものがあることを推察している。(四国農試大畑貫一)